

中国及び山西省の交通・トイレ事情について

高橋あすみ

皆さんこんにちは、高橋あすみです。前回のレポートでもお話しした通り、現在山西大学では1月の上旬から2月末までの約2か月間が長期休暇となっており、多くの留学生の友人は一時帰国したり中国国内での旅行を楽しんだりしています。私はというと、最初の1か月は中国政府認定の中国語検定(HSK)取得のため勉強に励み、試験終了後は中国国内の旅行を楽しみました。本日はそんな旅行中に利用した山西省の交通事情と、また最近中国人の方と話していて衝撃的な新発見をした、衛生面に関する考え方の違いについて、中国のトイレ事情と合わせてお話ししようと思います。

さて、今回の休暇を利用して、私は隣省である陝西省の西安という都市へ旅行に行きました。西安は中高生の歴史の授業で学習する、秦時代の始皇帝のお墓、兵馬俑が保存されている有名な観光地です。中国は国土が広大なため、一つの国でありながら無数の観光名所や独特の文化を持つ地域が各地に存在しており、旅行先一つとっても候補が尽きません。まずは山西省と太原市の交通事情と、中国の交通機関の特徴についてお話ししようと思います。

今回の旅路である太原から西安への距離は約600kmであり、日本でいうと東京から青森ほどの距離に該当します。隣の省への移動とは、日本でいうと隣の都道府県への移動ということなので、一つの省の規模の大きさを数字からも十分に感じられます。太原市は山西省の省都なので、省の交通の要所としての役割も担っており、すべての交通機関が集結しているため、国内の移動に関してはとても便利です。移動手段としては日本でいう新幹線に該当する役割を持つ、高速鉄道の略称高铁(gāotiě)や普通列車である火车(huǒchē)、また飛行機も頻繁に利用されます。もちろん、日常的に比較的近距离を移動する場合はバスや地下鉄も発展しています。

太原市には主に太原駅と太原南駅の二つの主要な駅があり、省をまたぐ長距離移動は太原南駅からの高铁が主に利用され、省内各地への移動は100年以上の歴史を持つ太原駅発の高铁や火车も利用されます。今回の旅行では、私は太原南駅からの高铁を利用しました。値段は日本円で片道4,000円ほどで時間は3時間弱ほどかかります。値段の安さは目を引きますが、サービスや車内の雰囲気、構造などは日本の新幹線とあまり変わりなくとても快適です。また中国の広大な国土のため、遠く離れた超長距離の都市間を移動するのであれば、国内であっても飛行機が利用されることは非常に一般的です。太原市の場合、複数の省をまたぐ長距離移動は太原武宿国際空港からの飛行機が最も便利で選択

されやすい交通手段となります。また、山西省自体も広い面積を持つので、省内の各地方都市含め合計で8か所の空港が存在しています。これらの駅や太原武宿国際空港は全て山西大学から比較的近くに位置しており、タクシーで15分前後しか要しません。ちなみに空港の名前には国際という言葉が入っていますが、基本的に国内線しか利用できません。中国で地方都市を訪問する際は直行便が存在する地域が非常に限られており、必ず大都市から国内線に乗り換える必要があるため、かなり時間がかかります。その代わり中国国内の都市間の移動は陸も空もどちらも非常に発展しており、移動にかかる値段や時間を十分に考慮して選ぶことのできる、交通手段の選択肢の幅が広い点が、中国国内の交通面での日本との大きな違いだと感じました。

例えば、中国での都市間の移動は高铁や飛行機の他に長距離長時間移動の普通列車やその一部である寝台車両が利用されることも非常に一般的です。私が今回利用した太原と西安間であれば、値段が高铁の半額以下である代わりに、到着までに10時間を要する普通列車も存在します。また、普通列車の中でも自由席や指定席、寝台車両など一つの列車の中で座席の種類も値段とともに細分化されており、移動一つとっても乗客は飛行機、高铁も含めそれらの中から自分の求める移動中の座席環境、所要時間、値段の条件に合わせ移動手段を選ぶことができます。ちなみに普通列車の中でも太原、西安間のような隣に位置する省間の移動はまだ短い方で、長くなると30時間以上を要する普通列車は珍しくないといえます。最長で50時間弱という超長距離旅程の普通列車も存在するそうです。また、移動速度によってもアルファベットで表される列車記号によって列車の種類は等級のように表され、明確に区分されています。これらの長時間を要するが、他の交通手段よりも大幅に安く移動できるという多くの選択肢は、ただの旅行や日常的な地域内の移動としての役割というよりは、低料金で地方や農村部を結ぶ一部の人々の生活の足としての役割を担っています。例えば飛行機や高铁のチケットを買うことができない地方の低所得層と呼ばれる人々や、経済的に移動手段の選択肢が限られる人々が出稼ぎで都市へ出て行く場合などは、低料金で移動できる地方と大都市を結ぶ普通列車こそが、非常に重要な交通網となります。そのような現実を考慮してみると、細分化された列車の等級や値段の違う座席の種類が数多く存在するのは、中国の現代社会の大きな所得格差の中にいる全ての国民に対応できるような一つの仕組みであるようにも見えてきます。

また、これらの中国の交通手段は、国鉄と呼ばれる一つの機関が全て全国運営しており、ほぼ独占状態にあります。この点は複数の鉄道会社が地域ごとに運営する日本とは大きく異なる中国の交通面の特徴といえます。中国の広大な国土があるからこそ、国の定めた一社によって膨大な数の都市間の複雑な移動

網もうまく交通の仕組みを機能させ、広く統一して管理できているのかもしれませんが。

このように、中国の交通事情からは、国土の広さだけでなく、社会構造や人々の生活背景も垣間見ることができます。次に、同じく生活に密接に関わる「衛生観念」という観点から、中国のトイレ事情について、中国の方とお話した際衝撃的な発見があったのでお伝えしたいと思います。

中国のトイレはほとんどが姿勢を屈めて利用する、いわゆる和式トイレです。人が住む家やホテルでは洋式トイレも多いのですが、外食する際のレストランや公衆トイレは基本的に和式トイレを採用しており、トイレットペーパーは流すことができません。ちなみに山西大学の留学生寮は全て和式トイレです。既に何度か訪中経験のあった私はそれらの特徴には慣れていたのですが、寮はさすがに洋式だろうと淡い期待を抱いていた私は、寮に到着した日に少しがっかりしたことを覚えています(笑)日本で和式トイレはもうほとんど見られないので、日本人で和式トイレに慣れない人や抵抗感を覚える人も多いのではないのでしょうか。人によっては昔の古い物だというイメージを持っているかもしれません。私も同様のイメージを持っていたため、中国について学びを深めれば深めるほど「科学技術や技術開発はこんなにも進歩し社会の様々な分野に影響を与えているのに、なぜトイレだけはずっと和式のままだろう、洋式の方がずっと快適に感じるだろうに、なぜどこにも洋式を積極的に導入する風潮が見られないのだろう」と不思議に思っていました。しかし今回とある中国の方とお話しして、中国のトイレが基本的に和式トイレなのは、中国の方の衛生観念や洋式トイレの捉え方も関係しているとわかりました。

中国の方はたとえ複数ある個室で和式トイレの中に洋式トイレがいくつか設置され、洋式トイレが空いていたとしてもそちらを選ばず和式トイレを自ら選んで利用したりする人が比較的多く見られます。私が積極的に洋式トイレを選んでいるのを見て、ある中国人の方は非常に驚かれた様子でなぜ洋式トイレがいいのかと質問し、逆に私がなぜ中国では和式トイレが主に導入されているのかと質問すると、中国では

- ・和式トイレは肌が便器に接触せず、より衛生的だと考えられている
- ・洋式トイレは障害者のためのものだという認識が強い

という主にトイレや衛生面に関する価値観の理由から、和式トイレのほうが人気であると教えていただきました。確かに思い返してみればホテルの洋式トイレでも便器の上にしくシートのようなものがアメニティとして提供されたり、

ショッピングモールなどで全て和式トイレでも別に設置された障害者用トイレだけは洋式を導入しているという場合は見たことがあります。考え方やその観点自体は納得できるものですが、しかし和式トイレの不便さや臭い問題など多くのデメリットを考えると、日本やその他の国では洋式トイレのデメリットを考慮した上でもそちらが選択されながら、中国では和式トイレのデメリットや洋式トイレのメリットよりも他人と共同使用する便器との接触を避けようとする意識やトイレの形式によって利用者を区別する役割意識が強い人がより多く、そのデメリット・混同回避の視点が何よりも優先されているからこそ、現在でも和式トイレが利用されやすいのだということが明らかになり、やはりとても衝撃的でした。

もちろん人や場所によっては考え方が違う場合もあると思いますし、長年の生活の慣れや他の問題点も洋式トイレが導入されにくい原因として挙げられるとは思いますが、しかしながら、この中国人の方から実際にその観点に関する話を聞いたという体験から、中国人の方の衛生面で重点を置いているポイントやその重要度、そしてそれが習慣としてどのように現れているのかを、新たな形で理解することができました。それと同時に、私の当初抱いていた疑問や考え方は、最初から彼らの物事の優先度や常識の差異を考慮する視点が不足しており、十分に多角的ではなかったことにも気がつくことができました。特に後者については、今後文化や習慣の違い、その原因などを考察する際に、ただ自分の常識をもとに予想するだけでは真の理解には辿り着けず、それらの根本からの深い理解を得るためには、あらゆる一切の前提や要素を自分の中で勝手に消去せずに受け入れ、十分に考慮した上で、さまざまな視点から新たな対峙の方法を取り入れることが重要であると深く実感しました。今回の体験は、二つの大きな新知見を得られた、非常に有意義な学びであったと考えています。

本日も最後までお読みいただき、誠にありがとうございます！来月からはまた中国での生活や学業の詳細について触れていきたいと思っています。それではまた来月のレポートでお会いしましょう！



高铁も火车も基本的にはアプリでチケットをとります。駅では実名認証や荷物検査も行われていますが、座席も表示されるので基本トラブルなく乗車できます。右の写真は太原南駅の広々としたホームです。



左は街中の公衆トイレの写真です。扉の上部に和洋のマークがついています。扉上のランプは使用中は赤く光る仕組みです。右は寮のトイレです。トイレットペーパーは設置されていないことが多いので持参する必要があります。使用後は左手前のバケツに入れるという手順です。